

北海道道北支部

発行者：齊藤浩平
編集者：川島航平
反田翔磨

NEWS 第156号

- ・ 支部長 新年のご挨拶
- ・ 全国障害者スポーツ大会
- ・ 最優秀演題賞の受賞
- ・ アンケート調査結果
- ・ 編集後記



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

日頃より、道北支部の活動にご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。新たな年を迎え、支部を代表してご挨拶をさせていただきます。

今年の始まりは、能登半島地震や航空機事故など、非常に重く辛いニュースが広がり、皆様の心に深い衝撃を与えたことと思います。この地震・事故で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げると同時に、被災された方々が一日でも早く元の生活を取り戻せることを心から願っております。現在、日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）からの派遣依頼が各所に寄せられております。我々リハビリテーション専門職が被災地に寄与できるよう、「災害リハビリテーション」に関する研修会などを道北支部でも継続して行ってまいります。

さて、昨年からは対面での研修会も増え、他施設の会員同士が直接会い、意見交換する機会が増えています。一昔前を知る我々にとっては当たり前の光景かもしれませんが、若い世代の先生方にとっては新鮮な経験かもしれません。若い先生方にお伝えしたいことは、「道北支部の諸先輩方は本当に優しい方が多い」ということです。他施設の先輩方に普段抱えている臨床の疑問を投げかけてみてください。必ず真摯に答えてくれることでしょう。今年も数多くの研修会、症例検討会などが支部で企画されています。それらの活動に積極的に参加し、是非とも交流の輪を広げていただきたいと思います。

最後になりますが、支部会員の益々のご発展とご健勝、ご多幸をお祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。今年もどうぞよろしくお願い致します。

道北支部 支部長 齊藤 浩平



全国障がい者スポーツ大会に帯同して

国民体育大会の終了後に開催地を同じくして、全国障がい者スポーツ大会が開催される事を知っていましたか？

2023年10月28～30日に全国障がい者スポーツ大会が鹿児島で開催され、都道府県と指定都市から選手として総勢3300名が参加しました。私は北海道代表として陸上競技チームにスタッフ兼トレーナーとして帯同させていただきました。

障がいの区分として、身体障がい、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、精神障がい、内部障がいがあります。電動車いすを操作される重度障がい者にも出場資格がある大会で、元パラリンピアンも含め、車いすの100m走には今後車いすバスケ、車いすテニスなど各競技のパラリンピックを目指す中学生選手が競走する姿もありました。

沢山の競技種目があり（QRコード1）、重度身体障がいがある選手は、投擲競技としてビーンズバック（お手玉のような物）スローやスラローム競技があります。スラローム競技は、白と赤の二色の関門があり、車いすで走行する競技です。白色の関門は前進で、赤色の関門は後進で進み、関門にぶつからないように巧みに走行する車いすの操作のレベルの高さには大変感動しました。（QRコード2）

北海道代表選手としての出場資格は、前年度に開催される北海道障がい者スポーツ大会に参加すること、また過去3年間全国障がい者スポーツ大会に参加をしていない事などが挙げられます。

ちなみに来年度は帯広、芽室で全道障がい者スポーツ大会が開催されます。

スタッフの仕事としてウォーミングアップ、ケアなど競技に関するものだけではなく、食事、移乗介助などの日常生活の手助けなど多く大変なこともありましたが、選手の笑顔のおかげで乗り切ることができました。

様々な障がいがある方を援助し、社会参加を促す機会を創出する意義のある大会でした。



1：競技紹介



2：鹿児島ハイライト



最優秀演題賞を受賞して



この度、第74回北海道理学療法士学会の最優秀演題賞をいただきました。今回受賞した「コロナ禍における地域在住高齢者の身体機能とフレイル有症率の経時的変化」という演題は、地域在住高齢者の運動機能や

フレイルの状況がコロナ禍3年間でどのように推移したかを検討した内容です。今回の調査より、コロナ禍で身体機能は大幅に低下し、感染拡大3年が経過しても感染拡大前の状態に戻っていないことが明らかになりました。今後はこのような現状を打開できるよう、今まで以上に「攻めの姿勢」で介護予防に携わり、「鷹栖町フレイルゼロ」を目指してまいります。

最後に、鷹栖町住民・行政の皆様、一緒に鷹栖町の高齢者のために働く大矢さん、そして私の臨床と研究を支えてくれる家族に感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も精進してまいります。

社会福祉法人さつき会 フィットネス倶楽部コレカラ
大河原和也

中堅理学療法士キャリアに関する アンケート調査結果

令和5年12月16日に開催された「道北支部会員情報交換会」にご参加いただいた皆様、そしてアンケート調査にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

今回の情報交換会では、各施設が取り組んでいるキャリア形成についてや中堅理学療法士が抱える苦悩などについて、非常に有意義なディスカッションが行われました。道北支部では、今後もさまざまな情報交換の場を提供し、各施設が連携し合い、より良い発展を遂げるための一助となることを目指しています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

情報交換会で提示されたアンケート結果を右記のQRコードからダウンロードできます。今後のキャリア形成について、ご参考にしていただければ幸いです。



北海道理学療法士会 道北支部 支部長
齊藤 浩平

編集後記

新年あけましておめでとうおめでとうございます！
道北支部の広報を担当しております，大西病院の反田
と旭川赤十字病院の川島です。

今年度も残すところあと少しですね。

今年度から理学療法士になられた一年目の方々は環境
など少しずつ慣れてきたでしょうか？僕は，日々の忙
しさを言い訳に自己研鑽を怠けてしまっていると感じ
ています。職場の先輩方を見ていると何年目になっ
ても自己研鑽の必要性を感じます。

ですが根を詰めすぎず息抜きも大事にしていま
しょう。

さて話はガラリと変わりますが，私は27歳なのですが，この歳に
なると周りはどんどん結婚していき嬉しい反面焦りを感じるこ
とがあります。また最近の結婚式はおおよそ2万円前後の会費を払うた
め，諭吉様が財布からすぐに居なくなります。
世知辛い世の中ですね。

支部SNSも要チェック！！

Instagram

Facebook



今月号の写真

